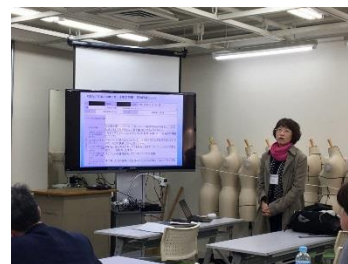


RPK2018 報告

熊野真規子/小野寺進/高木雄基/西村萌々子/工藤瑠夏/小野寺佑香



2018.3.26-3.27 に大阪・梅田の上田安子服飾専門学校で開催された第 32 回 [Rencontres Pedagogiques du Kansai](#)(関西フランス語教育研究会)に、地域志向科目「地域と世界をつなぐ」を共に担当する小野寺教員(英語)、同科目履修生の弘前大学学生 4 名と参加しました。「弘前×フランス」プロジェクト参加学生の特殊事例 2 例について報告し(熊野)、それをきっかけとしたグループワークを上記 5 名の協力のもと実施しました。学生は、2017 年度の「フランス日和～マルシェ 2017」においてすでに交流のある先生方や学生らとも懇親会やアトリエ参加をつうじて交流しました。(資料として、2 ページ目以降に予稿集の発表要旨と小野寺教員、学生の報告書を添付します)。

アトリエの発表タイトル

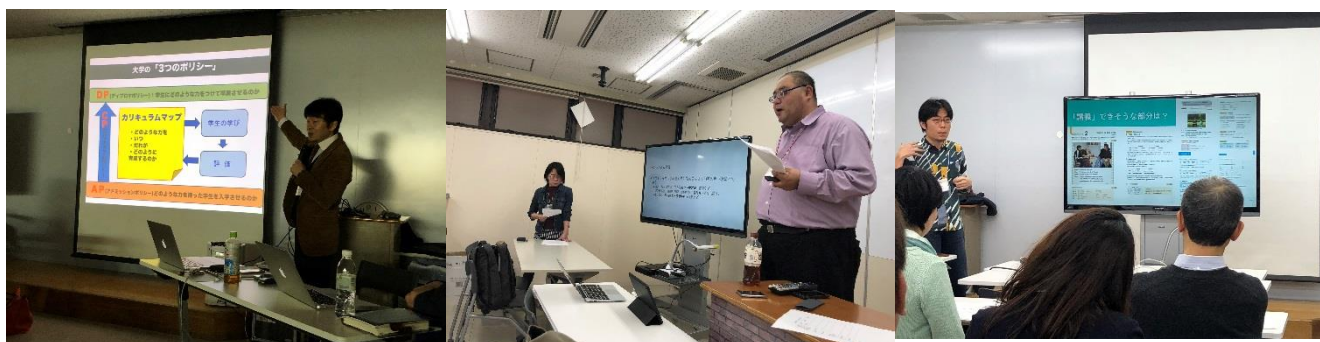
学生が主体的であるために？－「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考える－

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés: discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

タイムテーブル: 3/26(月)13:45-15:05

参加したアトリエ/ Table Ronde

- ・TR :フランス語教育とジェネリックスキル
L'enseignement du français et les compétences génériques
- ・Les représentations de l'enseignant(e) de français au Japon : statistiques, attentes et surprises
- ・フランス語文法、試してガッテン！
- ・高校における第二外国語教育の問題と可能性
- ・自己評価の観点を育む
- ・《他者》をむかえ入れる/つくりだす Accueillir / Faire les «autres»



(熊野真規子)

学生が主体的であるために？

－「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特例事例から考える－

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés: discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

熊野 真規子

弘前大学

kumano ? hirosaki-u.ac.jp

◆ 前半 (20-25 分) : 「弘前×フランス」プロジェクトに参画した学生の、あえて平均的ではない事例を中心に紹介

一つはプロジェクトに参画後、フランスに留学した学生の事例。留学先ではじめて日々出会うフランス語の Twitter、自分なりに気づいた日仏文化の違いを発信する Twitter、その留学前の活動を追う。教員が発信するブログ・SNS との違い、フランス語・フランス文化についての学生のリアルな息づかいは教員に新たな気づきを与えてくれるのではないかと思う。他方、同様のプロジェクト型科目に登録しても、活動によって主体的に参画しないできない学生もいる。事例も紹介し、後半の意見交換のきっかけとしたい。

◆ 後半 (50-60 分) : グループワークやプロジェクト型学習において、どのような工夫をすればより主体性を引き出せるのかについて、情報・意見交換の場

弘前大学グループワーク参加者：小野寺進（英語教員）、小野寺佑香・工藤瑠夏・西村萌々子（以上2年生）、高木雄基（3年生）

発表者と共にプロジェクト型科目「地域と世界をつなぐ」を担当する教員、プロジェクトの学生主体活動に参加している学生4名（履修言語は仏・独・中・露とさまざま）が弘前大学から参加する。各グループに分散する編成（「弘前×フランス」プロジェクトの参与観察等の経験者の参加があった場合も同様）を予定。

アトリエの最後は、各グループの意見・アイデアを共有する。参加者の経験・アイデア・意見を期待すると同時に、それぞれの教育現場、地域にあった多言語教育・多文化教育の方法に関する学生としての意見を探る場としても活用いただきたい。

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2018

@上田安子服飾専門学校一大阪

2018.3.26-27 参加報告書

多文化共生コース准教授 小野寺 進

1. 発表事前準備

- ① 目標：「学生が主体的であるために？－「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考える－」ワークショップの進行およびフランス語教育の現在を探る。
- ② 成果／課題・改善点：ワークショップが無事成功裏に終わったことと、フランス語学教育が抱える問題点を教員同士が相互に議論し考えることは、今日英語教育が抱える問題を改善していくための範となるように思えたこと。英語教育にアクティブ・ラーニングを取り入れる際に参考にすべきものが多くあった。

2. アトリエ

- ・日時：3/26(月)13:45～15:05

アトリエタイトル：「学生が主体的であるために？－「弘前×フランス」プロジェクト参加学生の特殊事例から考える－」

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés :discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

GW(グループワーク)目標：プロジェクト参画学生の事例について、意見および改善点を探る

GW 内容：ワークショップにおいて、特殊事例 Y さんのケースは珍しく、むしろ X さんのケースが多いという意見が出た。では X さんの問題を解決するためにどうしたら良いかを討論した。

GW 成果／課題・改善点：以下のような改善的が提起された。

- ・自らスケジュールを宣言する
- ・自分の目標を設定する
- ・複眼的な視点をもつ
- ・ルーティンから脱するようになる
- ・X さんができるように周囲の者が考える

感想、展望など：参加者は積極的に討論に参加し、自分の意見などを出し合うことができた。ただし、他の GW では参加学生についてプロジェクトに参加した動機などが主だったようで、GW で検討すべきテーマを明確にした上で行えば良かったようにも思えた。

3. その他の参加アトリエ、テーブル・ロンド等（日時とアトリエ名も）／その感想

- 日時：3/26(月)10:30～11:50

アトリエタイトル：フランス語教育とジェネリックスキル

L'enseignement du français et les compétences génériques

・フランス語教育を通して社会に役立つ能力を養うために、「論理的思考」や「協働力」などが必要。

・フランス語を素材とした論理的思考力の養成には、正しく情報を理解する力として「インプット」、また正しく情報を伝える力として「アウトプット」が重要。

・学び続けるための基盤となるジェネリックスキルの低い学生に対して、ネガティブな対処法として「自分でやった方が早い」とか「すぐにアドバイスをする」などが実際起きてしまう。



- 日時：3/26(月)15:20～16:40

アトリエタイトル：Revolution?歴史はひと段落つきましたから・・・

・日本における外国語教育に「間言語理解」を導入すると複数の言語理解が容易になることが興味深かった。

・金沢大学では、フランス語教員が大学教育で生き延びるために英語でフランス語の学習を取り入れているところに斬新さを感じた。

- 日時：3/27(火)10:00～11:20

アトリエタイトル：日本のフランス語教育における教師の異文化間能力の重要性

・発表およびワークショップがすべてフランス語で戸惑ったが、何となく解説やワークショップでの内容がフランス語でも多少でなるが理解できたのが成果である。特にフランス人教師が日本におけるフランス語教育の現場でどういった風を感じているかを知ることができた。

- 日時：3/27(火)11:35～12:55

アトリエタイトル：授業内学習と自主学習を活性化する学習支援ツールの一体化ーデジタル教科書・デジタル教材・eポートフォリオ・教材ダウンロードー

・現在は実験的であるが、デジタル教科書・デジタル教材・eポートフォリオ・教材ダウンロードを用いた教育を取り入れることで、多くの情報が時間をかけずに教室で提示できることが良いと思った。

・英語教育でも一部 Call などで行われているが、こういったインターネットを活用した教育は教室でもできる可能性を知る機会となった。

4. RPK2018の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想
(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

・教員と学生が共に学ぶという視点からは、多くの学生が参加して経験することがその後の人生に大きなプラスになると思う。

・この経験を自分のものにするために、他の学生にこの研究会での内容を伝えることが必要である。他の学生と情報を共有できるし、なにより自分の考えを再確認できる機会となるからである。



RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2018

@上田安子服飾専門学校一大阪

2018.3.26-27 参加報告書

産業情報コース 3年 高木 雄基

1. 発表事前準備

- ① 目標：参加者にも課題を見つけてもらう
- ② 成果／課題・改善点：学生も様々、教員もアクティブ・ラーニングを実践している人とそうでない人というが、それぞれの立場の意見が融合できたと思う

2. アトリエ

・日時：3/26(月)13:45～15:05

アトリエタイトル：

「学生が主体的であるために？ー「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考えるー」

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés :discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

GW(グループワーク)目標：ケースモデルXさんのような人にどう対処するか

GW内容：実際の現場で学生はどのような様態か、その要因は？、それぞれが取り組んでいるタスク管理法

GW成果／課題・改善点：グループワークを実践している今中先生の率直な意見を伺うことができた。指導者としての視点でグループワークができた。

感想、展望など：指導する際に学生の状況を観察して試行錯誤する作業が必要なことから、指導者は最前線で戦わなければいけないことを認識した。今以上にたくさんの現場で経験を重ねるつもりだ。



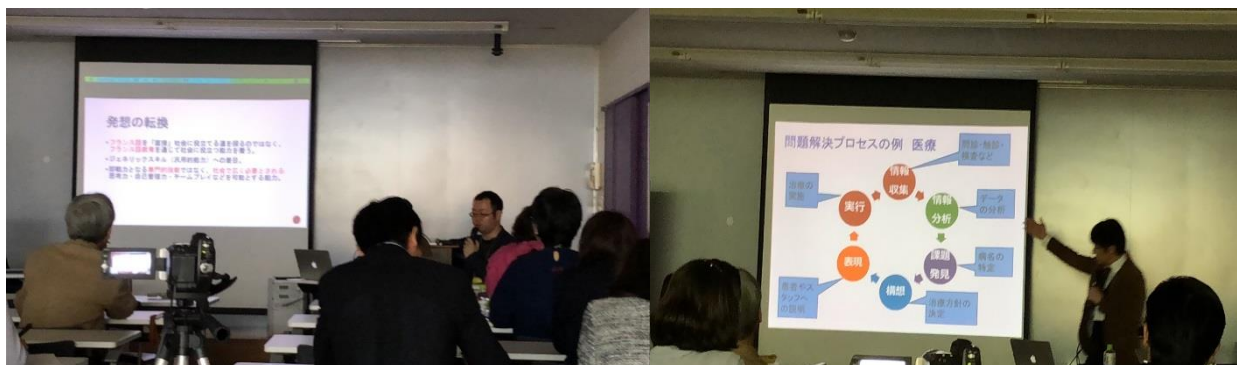
3. その他の参加アトリエ、テーブル・ロンド等（日時とアトリエ名も）／その感想

・日時：3/26(月)10:30～11:50

アトリエタイトル：フランス語教育とジェネリックスキル

L'enseignement du français et les compétences génériques

河合塾の竹内さんは民間企業で教育を研究していることから、ものすごく説得力のあるわかりやすい発表であった。それゆえ自分がこうしていくべきだというように展望も観測しやすかった。



- ・日時：3/27(月)10:00～11:20
アトリエタイトル：私の特別な授業とは？

初習クラスでの指導法を実際に披露していただいた。ガイダンス段階から、いきなり簡単なフランス語（学生にとっては未知だが）で自己紹介をする。何度も繰り返し音を聞かせ、なんとなくここを自分の情報に置き換えれば喋れそうだと思う。30分ほど苦しめたあとに日本語に切り替えリラックスさせる。一旦緊張感をもって締め上げることで、学生のモチベーションを維持するよう取り組んでいるようだ。想定は言語学習だが、これは他のアクティブラーニング系の授業にも応用できるかもしれないと考えた。継続したモチベーションの構築の補助をテーマに別の意見を聞いてみたくなった。

- ・日時：3/27(月)11:35～12:55
アトリエタイトル：授業内学習と自主学習を活性化する学習支援ツールの一体化
ーデジタル教科書・デジタル教材・eポートフォリオ・教材ダウンロードー



eポートフォリオという単語に惹かれて参加した。プロジェクトで教科書を使うことはまずないが、学生間の自己評価や目標設定を共有することは、先のアトリエのグループワークで実感していた。しかしながら、現状のスプレッドシートに記入してアップロードして、閲覧するためにはわざわざダウンロードするという手間では

あまりにも継続性に欠けるので、新しいシステム環境の構築をしたいと考えていた。その参考になればと思って参加したが、着想には興味をそそられた。

4. RPK2018 の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想
(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

学生としてというより、一学生を従えた指導者としての立場で参加した。主体性を育てるために、先にモチベーションを高めることが必要だと気づき、私はあらゆる現場で物事を見てきただけに社会の流れをキャッチできるが、そうでない学生のほうが圧倒的に多い。そんな学生に気づきを与えるためにどうすべきか考え続けるし、挑戦していく。

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2018

@上田安子服飾専門学校一大阪

2018.3.26-27 参加報告書

多文化共生コース 2年 西村 萌々子

1. 発表事前準備

今回は学生の発表が無かったため省略。

2. アトリエ

- ・日時：3/26(月)13:45～15:05

アトリエタイトル：「学生が主体的であるために？ー「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考えるー」

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés :discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

GW(グループワーク)目標：積極的な発言をし、建設的な意見を出す。

GW内容：「特殊事例の紹介をふまえて、グループ内で問いを立て、それについて話し合う」ということであったが、実際は先生方からの質問を受けて私が回答する形式であった。質問内容は大きく分けて、①私自身に関すること/②プロジェクトそのものに関すること/③授業に関することの3つであった。

GW 成果／課題・改善点：

・成果としては、先生方から「なぜプロジェクトに参加しようと思ったのか」「あなたのモチベーションは何か」というような自分自身に関する質問を受けたことで、自分の気持ちを再確認できたことである。また、プロジェクトに関する質問を受けたことで、自分は何を知っていて何を知らないのかということも明らかになった。自分は今年度の代表ではあるものの、協賛について質問を受けても詳しく話せないなど、情報共有がうまくいっていないというプロジェクトの課題がここでも明らかになったと思う。プロジェクトの全貌は参加前に明らかにし、メンバー全員がプロジェクトについて知らないことはない状態にするための体制作りが課題になるであろう。

・自分側からも発問や意見を出せたらよかったと思うが、先生方の勢いに負けてできなかった。問題を受けて自ら問いを立てることが苦手な人が多いということで、あえてGWで決まったテーマを与えないということであったが、結局フリートークのような形になってしまった。私自身問いを立てることが得意とはいえないので、日頃から意識してみ



たいと思う。

感想、展望など：熱心にプロジェクトの詳細を尋ねてくる先生方の様子から、自分が思っていた以上に、このプロジェクトが語学教育界で注目を集めていることが分かった。先生方から意見もいただいたので、今年の活動に活かしたいと思う。

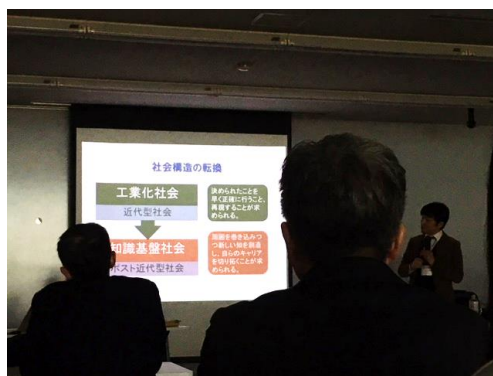
3. その他の参加アトリエ、ダブル・ロンド等（日時とアトリエ名も）／その感想

- ・日時：3/26(月)10:30～11:50

アトリエタイトル：フランス語教育とジェネリックスキル

L'enseignement du français et les compétences génériques

・参加したアトリエの中で、個人的に最も興味深い内容であった。フランス語を直接活かすのではなく、フランス語を通じて社会に役立つ力を養うという考え方やジェネリックスキルの話は「弘前×フランス」プロジェクトにも通じるものがあると思った。授業づくりを行なう上でアクティブラーニングの問題点や、グループワークの欠点を補う工夫も参考になったので、今後参考にしたい。



- ・日時：3/26(月)15:20～16:40

アトリエタイトル：Révolution? 歴史はひと段落つきましたから・・・

・異なる言語であるからといって別々に学ぶのではなく、基本的な文構造や単語が似ている言語を並列して学ぶことで、効率の良い学習が可能になるという語学学習の新しい在り方を提唱していた。ロマンス語のような、同じ言語から派生した言語で可能であり、実際に対応した教科書を編集しているとのことであった。実際にその教科書を見たが、5つほどの言語に対応していて、一つの言語にある程度の理解があれば未学習の言語で書かれた文章が読めるようなつくりになっていた。一から学ぶのではなく、既習の言語と何が同じで、何が違うのかということを中心に学ぶため、確かに効率が上がると感じた。

・また、フランス語教育を守るために、フランス文学を世界文学の中心と考え、そこからフランス語教育の重要性をアピールしていきたいと語っていた。言語教育という分野にとらわれず、生き残るために他の分野を巻き込んでいくという考え方はどんなことにでも応用できると思った。

- ・日時：3/27(火)10:00～11:20

アトリエタイトル：私の特別な授業とは？

- ・模擬授業のような形式に始まり、最後は意見交換を行なった。授業において「つかみ」

がいかに重要であるかを実感した。ジョークを交えて生き生きと授業する姿をみて、この人に教わったら楽しそうだなと思った。

・意見交換の中で、「フランス語の先生は陽気で明るい」といったようイメージが持たれるので、授業中のキャラづくりや普段の自分とのギャップに苦労しているといった声が上がった。確かに自分もそのようなイメージを持っていたが、先生方の苦労には考えが及ばなかったのも、とても印象に残っている。自分がどんなコンディションであっても、生徒の前では「教師」であらなければならないというところに、改めて教師という仕事の難しさを感じた。



・日時：3/27(火)

アトリエタイトル： 高校における第二外国語教育の問題と可能性

・第二外国語を取り入れている高校の現状と課題についての意見交換の場であった。個人的には思った以上に第二外国語を取り入れている高校が多いことに驚いた。

・今後入試の在り方が変わっていく中で第二外国語の立ち位置もまた変化してくると思われるが、生徒の純粋な学びへの興味が引き出されるような体制が整ってほしいと思う。

・日時：3/27(火)

アトリエタイトル： 新学習指導要領を踏まえた授業指導案をどう作成するか？

・2020年からの新学習指導要領を受けて、中学校で行なっているフランス語教育の実践をもとに意見交換を行なった。中学校で第二言語の授業があるということ自体自分にとっては想像しがたかったが、イケメンに道案内するシチュエーションを考えたり、動画を取り入れたりして生徒の興味を引く工夫をしていることが分かった。

伊川先生のアトリエでもあったように、視覚的理解を促すために動画も活用していた。意見交換でも、生徒の様子を見ながら日々試行錯誤している様子が伝わり、教員という仕事を身近に感じる機会となった。

4. RPK2018の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

・はじめは場違い感が否めなかったが、教員の方々が気さくに話しかけてくれたのでたくさんの人と話すことができた。プロジェクトに関する質問を受けるだけでなく、他大学で行なわれている取り組みや意見を聞けたので、今後の活動に活かしていきたいと思う。

・また、将来教育に携わりたいと思っている自分に



とって、よりよい授業について意見交換する教員の姿は刺激になったし、教育現場にいる人の生の声を聞くことができる機会は貴重であった。学会に参加するのは今回がはじめてだったが、今後こういった機会があればぜひ参加したいし、必ず何かしら得るものがあると思うので後輩にも経験してほしいと思う。

5. 大阪産業大学の学生との交流とその感想

昨年のマルシェにも参加していて顔は見知っていたため、すぐ打ち解けることができた。トークが上手く、楽しませようとしてくれていることが伝わり、さすが大阪の学生だな、と思った。年下ではあるが学ぶところがたくさんあり、交流できてよかったと思う。

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2018

@上田安子服飾専門学校一大阪

2018.3.26-27 参加報告書

多文化共生コース 2年 工藤 瑠夏

1. 発表事前準備

今回は学生の発表が無かったため省略。

2. アトリエ

- ・日時：3/26(月)13:45～15:05

アトリエタイトル：「学生が主体的であるために？－「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考える－」

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés :discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

GW(グループワーク)目標：熊野先生の発表を基にグループワークの進行を円滑に進められるようにする。

GW内容：各自でテーマを設定して話し合い、その後グループを組みなおして共有した。

GW 成果／課題・改善点：自身の達成度や意識の変化などの個人的な質問には答えることができたが、プロジェクトの深い部分までは把握しきれていなかったため、プロジェクトの全貌について知っておく必要もあるのかもしれないと感じた。

感想、展望など：私たちのグループでは本題であった生徒の主体性に関する討論はあまりしなかった。様々な地域の大学の講師が参加してくれたため、弘前大学以外の大学における多言語教育の在り方やそれぞれの出身地に関連した地域性を共有することができ、とても勉強になった。フランス人の方も同じグループに加わっていたのだが、フランス人視点からの意見は日本人である私に定着していた見方と異なっており興味深かった。また、私たちの活動を外部の方々が知ることによって、今まで思いつかなかったアイデアや発展性を見出すことができたと思う。このように、活動をよりよくしていくためには当事者だけでなく外からの意見を取り入れていく必要もあるのではないかと感じた。今回得た意見を参考に今後のプロジェクトを進めていきたいと思う。



3. その他の参加アトリエ、テーブル・ロンド等（日時とアトリエ名も）／その感想

・日時：3/26(月)10:30～11:50

アトリエタイトル：フランス語教育とジェネリックスキル

L'enseignement du français et les compétences génériques

フランス語本体ではなく、フランス語教育という観点から社会的に役立つスキル(ジェネリックスキル)を育成するという内容だった。私が大学で受講している講義でもグループワークが多く取り入れられているが、このように生徒が能動的に学ぶ授業スタイルを通して基本的なスキルを育てているという印象はなかったため、今後は意識して取り組んでみようと思った。就活などでグループワークが導入されていく中でジェネリックスキルは最も自分に足りない能力だと思うので、精進したい。

・日時：3/26(月)15:20～16:40

アトリエタイトル：**Révolution?**歴史はひと段落つきましたから…

私がフランス語を学び始めたのは大学に入ってからである。それ以前はやはり英語一辺倒の人生だった。しかし、フランス語を学ぶことによって英語との類似点や語源を知ることができた。英語を勉強するだけでは得られなかった新しい視点を切り開くことができたのだと感じる。1つの題材から次の題材へ関心が繋がるように、粕谷先生の提唱する間言語理解は学びの連鎖を促すと同時に、多方面に対する私達の知識をより深めるものであると思った。

・日時：3/27(火)10:00～11:20

アトリエタイトル：私の特別な授業とは？

最初の20分間は全部フランス語での授業が再現された。そこで楽しかったのが、ある程度話している内容がわかったことである。正直言語系にはそこまで強くないため、事前知識がなかったならば途中で帰りたくなっていたところだった。しかし、ある程度時間が経過した上で放たれる日本語は、授業の雰囲気より親しみやすくするのに効果的だったと思った。親しみやすい授業は学生の関心を引き出すうえで重要だと感じた。

・日時：3/27(火)11:35～12:55

アトリエタイトル：高校における第二外国語教育の問題と可能性

・私の出身校には外国語科があり、ロシア語の授業が取り入れられていた。そのため、私は普通科の生徒であったが高校における多言語教育は身近であった。外国語科は創立当初から存在していたのではなく、比較的新しい科である。外国語の需要が高まっていることに乗じて併設され、専門的な知識を学ぶことができたようだ。

・アトリエで紹介された高校は全て私立高校であ



ったが、このように公立高校でも第二外国語を学ぶ設備が追加されることもある。受験を重視した授業計画が一般的ではあるが、第二外国語を学ぶ意欲がある生徒のために設備を整えることは、高校教育を豊かにするために不可欠な使命なのではないかと思った。

・日時：3/27(火) 15:35～16:55

アトリエタイトル：《他者》をむかえいれる/つくりだす

Accueillir/Faire les 《autres》

・ポートフォリオやグループワークなどを通して他者を意識した学習を促すという内容だった。ポートフォリオなどで授業を振り返ることで、自分の知識を定着させることができると同時に自分の理解度を客観的に見ることできるのではないかと思った。毎回コメントを求められる授業は気が張り詰めるので苦手だったが、これからは意識して取り組んでいきたいと思った。

・また、グループワークの意義を再認識することができた。教師側からみた役割などが取り上げられていたが、その役割を踏まえたうえで学生として意識的にグループワークに取り組もうと思った。



4. RPK2018の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

・学内にいるだけでは得られなかった多方面での繋がりは大切にしていきたいと感じた。弘前は地方で交通の便も悪く、主に学生や教員が集まる都会からは気軽に訪れることのできる立地ではないと思う。そのため、このような各地の学生・教員と交流できる機会は非常に貴重で有益な体験であると思った。より多くの人と交流することによって、自分の見聞を広めることができるほか、今後の人生の可能性を広げる人間関係を築くことができるのではないかと思う。

・また、私はこれまで教育的な観点から物事を見ることは無かったが、今回得た知識を学生という立場から講義やプロジェクトで実践していきたいと持った。フランス語を言語としてのみ認識するのではなく、フランス語を学ぶことによってまた違ったスキルを育てることができるということ意識して生きていきたい。

5. 大阪産業大学の学生との交流とその感想

今回 RPK2018 に参加していた大阪産業大学の学生2名とは、昨年9月に弘前で行った「フランス日和 マルシェ 2017」で既に面識があった。マルシェの時よりも距離が近くなったような気がする。とても親切でおもてなし精神に溢れた方々で、県民性なのか個性なのか、とにかく見習いたいと思った。しかし、アトリエの内容について話し合うことは無かったので、もし今後会うことができたならば意識の高い会話もしてみたいと思った。

RENCONTRES PEDAGOGIQUES DU KANSAI 2018

@上田安子服飾専門学校一大阪

2018.3.26-27 参加報告書

多文化共生コース 2年 小野寺 佑香

1. 発表事前準備

今回は学生の発表が無かったため省略。

2. アトリエ

- ・日時：3/26(月)13:45～15:05

アトリエタイトル：「学生が主体的であるために？－「弘前×フランス」プロジェクト参画学生の特殊事例から考える－」

Pour rendre et maintenir les étudiants motivés :discussion à partir d'exemples du projet plurilinguistique et pluriculturel « Hirosaki×France »

GW(グループワーク)目標：グローバルアクションのメンバーとして「弘前×フランス」プロジェクトについての意見を述べる。

GW 内容：

- ・「弘前×フランス」プロジェクトに参加して一番良かったと思うことはなにか。
- ・プロジェクトに関わることでフランス文化について新たに知ることができたかどうか。
- ・中国語を履修していると言うことで何か中国文化の発見はあったかどうか。
- ・リーフレットに関して、街のどこに配布して活動を広めているのか。
- ・この「弘前×フランス」は弘前の市長などは知っていて、多文化交流などに関して寛容なのか。

GW 成果／課題・改善点：

・アトリエ前半の特殊事例 X, Y についての議論はGWの中では行われなかった。「弘前×フランス」プロジェクトについて知らない参加者が多かったため、どういう活動なのか、参加してみたいの感想を主に説明した。GWの中に海外留学を経験した学生もいたため、どのように言語を学んでいくとよいかなどの意見も出た。

・個人的な課題としては、GWの中では短い時間の中で参加者が次々に質問や意見を出していたため、十分なメモを取ることができなかった。

学生という立場でGWに参加しかなり緊張していたというのものもあるが、慣れない環境の中でも十分なメモを取ったり、自分の意見をしっかり持つなど、いつも通りのパフォーマンスができるように常に心掛けていきたい。



感想、展望など：

・リーフレット記事の中のフランス文化の一例としてフレンチトーストについてフランスではどのように食べられているかなど意見をくれた方もいた。リーフレット製作者としては弘前の町紹介という部分に焦点を当てすぎていたため、もっとフランス文化について知ることができるような記事を書くことができれば良かったと思った。リーフレットのバックナンバーを参加者に見せると「こちらももらってもよいか」という声をいただくことができた。活動の内容に興味をもってもらえたようでとても嬉しかった。

3. その他の参加アトリエ、テーブル・ロンド等（日時とアトリエ名も）／その感想

・日時：3/26(月)10:30～11:50

アトリエタイトル：フランス語教育とジェネリックスキル

L'enseignement du français et les compétences génériques

・専門知識の基盤となる知識や学び続けることのできる力「ジェネリックスキル」を身に着けるためには自己分析が重要となり客観的な事実をもとに自分の弱みを知り、強みを伸ばしていくことが大事である。

・GW を行うことでアクティブラーナーを作り出す狙いがあるという話が出ていたが、GW では個人の性格などから成果に差が出るため、基準を設けある程度のレベル分けや、一グループに対する人数の制限などがかなり重要となるのではないかと考えた。

・GW の中で学びに対するモチベーションの差は必ず出てくるものだと思うため、一定の時間を決めて常にグループメンバーが変わっていくような状況を作ってみるのはどうだろうかと思った。

・フランス語を素材とした実践例では、インプットだけでなくアウトプットも重視した内容を紹介していた。文章のメインアイデアやキーワードを他者と共有し、新たに文章の展開の仕方について考えていくことで、自分の中に取り込んで新たな問いを見つけるという学び方は自分の日々の語学学習の中でも意識して行っていきたいと思った。

・日時：3/27(火)10:00～11:20

アトリエタイトル：日本のフランス語教育における教師の異文化間能力の重要性

・ほとんどフランス語での説明であったため、詳しく内容を理解することができなかったが、言語も含めた文化の違いについてとても面白い内容のアトリエだった。

・日本人やフランス人、中国人など文化を通したそれぞれのイメージを挙げたり、同一の言語を使っただけのコミュニケーション例を使い、そこでの解釈や判断の違いなどについての説明を受けた。

・スライドと配布資料を使っただけの講義形式かと思ったが、参加者の中から意見や疑問など活発な議論が行われていて、フランス語が理解できないことがとてももどかしく思えた。



・日時：3/27(火)11:35～12:55

アトリエタイトル：高校における第二外国語教育の問題と可能性

・学校の教育システムとしてフランス語が、数学・英語などとともに選択式となってしまう、生徒が第二外国語の履修が難しい環境が作られている。

・公立学校での原因の一つとして、教師側の移動が多く、また学校側の理解を得るにも毎年同じ説明を繰り返して行う必要があり継続が困難な環境がある。

・教員という立場からの教育についての議論を聞くことができ、学生の私としてはとても新鮮で面白かった。

・第二外国語だからこそ自由に授業を行える側面があるという意見も出ていて、今までどのように教員が授業を行っているか考えたことがなかった私にとって、改めて「教育」というものに対して考えるきっかけをもらうことができた。

・一例として、「英語を学ぶことについてどう思うか」という英語のエッセイを学生に書かせているという意見が上がっていたが、これは言語を学ぶ上で学生にとっても自分の意識について改めて考えるためにも良い学習方法なのではないかなと思った。それまでなぜ自分が英語を学んでいるのか考えたことがなかった学生の中で、新たなモチベーションの発見にもつながっていくと思う。



・日時：3/27(火)15:35～16:55

アトリエタイトル：《他者》をむかえいれる/つくりだす

・発見型授業を行うことで学生たちの中で協働する環境を作り自ら発見し解決する力を身に着けさせる。

・協働する環境を作り出すことで、他者を通じて自分自身の達成度を知ることができる。

・GWの中でリフレクションを促すためにプリントへの書き込みを重要視していたが、プリントである必要はないのではないかなと思った。以前私が参加した授業の中では2人組で一冊の教科書を共有してペアで回答を考えるというものがあった。プリントよりも教科書のほうが生徒側としては管理しやすいため、プリントの書き込みを重要視するという実践例に対して、少し疑問が出てしまった。

・GWでの他者からのリアクションはとても大事だと思った。

・コメントペーパーにクマのイラストを乗せることで、学生との距離を縮めるという例が紹介された。自分が書いた授業の振り返りに対して教員から反応をもらうのはとても嬉しいことなので、次の授業の最初に学生のコメントの一例を紹介するなど、そういった授業スタイルが増えていくと良いかなと思った。

4. RPK2018の企画、教員・研究者・出版社との交流など、このたびの経験全体の感想(学んだこと、今後への生かし方、後輩にも経験させたいか、など含む)

・教員や研修者の立場からの意見を聞く機会はほとんどないため、とても貴重な経験となった。3月26日の「弘前×フランス」プロジェクトに関して、学生としての意見をきちんと述べる事ができたか不安もあったが、それ以上に、これからの自分の学習に還元できるものがたくさんあり、参加してよかったと思えた。ただの講義形式とは違い、どのアトリエも積極的な議論が行われており、それぞれの教員や研究者の方が強い思いを持ってこのアトリエに参加していることが感じられた。今後の自分の言語学習に対するモチベーションも上がったと思う。教員や研究者の方から話しかけていただくことも多く、参加したアトリエについてどんな内容であったのか、どのようなことを思ったのか意見を交換しませんかと言っていたのがとても嬉しかった。

5. 大阪産業大学の学生との交流とその感想

・同じ学生での参加ということで、すぐに打ち解けることができ良かった。とても親切にいただき、大阪の観光スポットなどの話で盛り上がっていた。実際に最終日の夜には大阪駅の中を案内してもらった。次の弘前でマルシェにもぜひ参加したいと言ってもらい、これからの自分たちの活動を頑張らなければと思った。もっと時間があれば学生同士でもお互いに参加したアトリエについて色々意見を言い合うことができたらよかったなと思った。

